

2022年度 検索技術者検定

2級 試験問題(前半)

注意事項

1. 着席したら、受験票を机の上に置いて下さい。
2. 解答用紙の所定の欄に受験番号・氏名を必ずご記入下さい。
3. 解答時間は、13：40～15：10 の 90 分間です。
4. 中途退席できる時間は、14：25～14：55 の 30 分間です。
一旦退席すると、前半の試験終了まで再入場はできません。
5. 問題は 12 問、全 15 ページ、解答用紙は 2 ページです。確認の上、落丁・乱丁・印刷不鮮明のもの等がありましたら、手をあげて試験官にお知らせ下さい。
6. 解答は、問題文の指示にしたがい、解答用紙にご記入下さい。
(解答用紙裏面への記入は無効です。)
7. 問題の内容に関する質問は一切できません。
8. 試験問題は持ち帰って結構です。

問1 以下は情報検索に関する記述である。空欄 (A) ~ (H) にあてはまる最も適切な語句を解答群から選択し、その番号を解答欄に記入しなさい。

(A) を検索語として、論理演算を使用して検索式を入力する方法では、適切な (A) が思いつかない場合、良い検索結果が得られないことがある。このような場合、欲しい情報を得るために、欲しい情報の概念を文に表現して検索できれば便利である。類似文書検索は、このような考え方に基づいて開発された検索方法であり、文章中に出現するすべての (A) に対して (B) づけを行い、(C) 空間モデルを使用して類似度を算出する。このモデルは、文書を単語の (D) とみなして、ある単語を文書内に含まれる (C) として表現し、(C) の近さ、すなわち類似度を計算することによって、入力した文と検索対象となる文書がどの程度近いかを算出する。代表的な類似度の尺度として (E) がある。(E) とは、「文書に含まれる情報を (F) (この場合は (C)) に表現し、その近さ=類似度を計算することによって、ある文書とある文書がどの程度近いかを表現する指標」のことである。

類似文書検索の手法では、文書中に出現する (A) に対して、「tf・idf」という尺度で (B) を与える。tf ((G): 文書内頻度) は入力した文書中での出現頻度を表し、idf ((H): 文書数の逆数) は検索対象となる全文章中での出現頻度を表す。

<解答群>

- | | | | |
|---------------------------------|------------------------|---------------|-----------|
| 1. term frequency | 2. テキスト | 3. 距離 | 4. Nグラム |
| 5. 修飾語 | 6. 形態素 | 7. 定義 | 8. 重み |
| 9. 順位 | 10. 近接演算 | 11. タンジェント類似度 | 12. キーワード |
| 13. ベクトル | 14. telegram frequency | 15. 塊 | |
| 16. inverse document frequency | | 17. コサイン類似度 | |
| 18. internal document frequency | | 19. 言語的 | 20. 数学的 |

問2 以下はインフォプロの仕事内容に関する表である。空欄 (A) ~ (I) にあてはまる最も適切な語句を解答群から選択し、その番号を解答欄に記入しなさい。

インフォプロが所属する組織における、インフォプロによるエンドユーザ向けの仕事内容としては、以下のような項目が挙げられる。

(A) の選定	エンドユーザのニーズやスキルを把握したうえで必要な (A) を選定・導入することが求められる。 以下のようない点などに注意をはらう必要がある。 ①データの収録内容、(G) ②エンドユーザからみた (A) の使いやすさ
(B) の整備	所属機関のウェブサイトやネットワーク、情報セキュリティなど、エンドユーザの (B) を整備する。
(C) の選択能力	情報要求に応じて、適切なデータベースなどの (C) を選択する。
(D)	エンドユーザに対して、(A) の利用方法を指導する。
(E)	エンドユーザが困っている内容に対して問題解決を提供する必要がある。
(F) 入手の環境整備	電子ジャーナルの導入、(H) (利用者にとって最適なサービスへのリンクを示すシステム)、(I) (大学や研究機関などによる電子的資料の蓄積・公開) などの (C) 入手の環境を整える必要がある。
(A) の評価	利用統計の管理や費用対効果についての検証を行う。

<解答群>

- | | | | |
|--------------|--------------|--------------|------------|
| 1. 書誌ユーティリティ | 2. 検索環境 | 3. 網羅性 | 4. NDL |
| 5. コミュニケーション | 6. レファレンス | 7. 電子メール | 8. 原資料 |
| 9. 文献複写 | 10. 情報検索システム | 11. インターネット | 12. NII |
| 13. 収録者 | 14. 通信速度 | 15. エンドユーザ教育 | 16. ヘルプデスク |
| 17. リンクリゾルバ | 18. 機関リポジトリ | 19. 情報資源 | 20. 通信速度 |
| 21. 図書館 | | | |

問3 以下は、データベースの分類について述べた記述である。(A)～(H)にあてはまる最も適切な語句を解答群から選択し、その番号を解答欄に記入しなさい。

データベースは、いくつかの方法で分類ができる。例えば、文献の書誌情報や所在情報などを収録し、一次情報へのアクセス情報を提供するデータベースのことを(A)という。一方、学術論文(雑誌記事)、特許公報などの文献の全文、数値(統計データ、株価など)の一次情報そのものを提供するデータベースを(B)という。(A)形式の特許情報が収録されたデータベースの例として(C)があり、(A)形式の学術雑誌論文が収録されたデータベースの例として(D)がある。そのため、目的に応じた使い分けが必要となる。

一方で、データベースは、その想定される用途と作成機関によっても分類できる。

一般企業や個人を利用対象とした商用データベース、企業や学会などの特定の組織に属する人向けの(E)データベースや、政府・省庁・大学・学会などが作成して一般に広く開放している(F)データベース、そして、個人が作成しWeb上で公開される(G)データベースである。

(F)データベースや(G)データベースは、近年の著しいWeb環境の充実により利用者が年々増加傾向にある。しかし、無料で誰もが気軽に利用できるものが多い一方、利用時には注意すべき点が複数ある。具体的には、作成者の主観や意図が入ることによるデータの偏り、出典の欠落などの(H)、データ更新の頻度やタイムラグ等、である。

<解答群>

- | | | |
|-------------------|--------------------------------|------------------|
| 1. マルチメディアデータベース | 2. レファレンスデータベース | 3. ファクトデータベース |
| 4. リレーションナルデータベース | 5. Derwent World Patents Index | 6. Web OYA-bunko |
| 7. IEEEExplore | 8. Web of Science | 9. Espacenet |
| 10. ソーシャル | 11. インハウス | 12. パーソナル |
| 13. パブリック | 14. オープン | 15. プロバイダ |
| 16. 精度 | 17. 確度 | |

問4 以下は国立国会図書館（NDL）に関する記述である。空欄（A）～（F）にあてはまる最も適切な語句を解答群から選択し、その番号を解答欄に記入しなさい。

(A) 制度により国内の発行者などに NDL への出版物の納入が義務付けられている。NDL は収集した出版物の標準的な書誌情報である (B) を作成・提供し、将来にわたるアクセス保証のために出版物の保存を行っている。2012年1月から国立国会図書館 (C) を提供している。NDL では来館による資料利用、図書館間 (D)、遠隔申し込みによる複写物の提供サービスなどだけでなく、NDL ONLINE、国立国会図書館 (C)、NDL で収集・保存しているデジタル資料を検索・閲覧できる国立国会図書館 (E) をはじめ、さまざまな電子情報を提供している。リサーチ・ナビや (F) は、的確な情報資源を探す場合などに有用である。

<解答群>

- | | | | |
|--------------------|-------------|----------------|----------------|
| 1. 納本 | 2. 寄贈 | 3. NACSIS-ILL | 4. ニュースレター |
| 5. Webcat | 6. WorldCat | 7. NACSIS-CAT | 8. 全国書誌データ |
| 9. 献本 | 10. J-STAGE | 11. サーチ | 12. デジタルコレクション |
| 13. J-GLOBAL | 14. 貸出サービス | 15. カレントアウェアネス | |
| 16. レファレンス協同データベース | | | |

問5 以下は政府統計に関する説明である。(A)～(H)にあてはまる最も適切な統計調査名を解答群から選択し、その番号を解答欄に記入しなさい。

- (A) 全国の世帯及び世帯員を対象に、保健、医療、福祉、年金、所得等の基礎的事項を調査。世帯票・所得票は毎年、健康票・介護票及び貯蓄票は3年ごとの大規模調査年のみ調査する。健康票では、自覚症状・通院・日常生活への影響・健康意識・悩みやストレスの状況・こころの状態・健康診断等の受診状況等を把握することができる。
- (B) 5年ごとに実施する「経済センサス - 活動調査」の中間年の実態を把握することを目的とし、毎年実施されている。(「経済センサス - 活動調査」の実施年を除く)。同調査は、サービス産業動向調査(拡大調査)、商業統計調査及び特定サービス産業実態調査の3つの調査を統合・再編して2019年から実施されており、各産業の売上高や費用内訳等の実態を把握することができる。
- (C) 一定の統計上の抽出方法に基づき選定された全国約9千世帯を対象として、収入・支出、貯蓄・負債などを毎月調査している。1か月間のその家庭の収入がどのくらいあり、品目ごとにどのくらい買っているのかを把握することができる。
- (D) 国民の就業・不就業の状況を把握するため、一定の統計上の抽出方法に基づき選定された全国約4万世帯を対象に、毎月調査している。調査の結果には、毎月公表する基本集計として、就業者数・完全失業者数・完全失業率など、四半期ごとに公表する詳細集計として、非正規の雇用者が現職の雇用形態についている理由・転職者数・仕事からの収入・仕事につけない理由・失業期間・就業希望の有無などがある。
- (E) 5年ごとに実施する農林業センサス実施年以外の年の農業経営体の実態及びその変化を明らかにするため、農政の企画・立案、推進等に必要な資料を整備することを目的とした調査で毎年調査される(西暦の末尾が0及び5の年を除く)。同調査では、経営耕地面積、経営耕地の状況、データを活用した農業を行っている経営体数、農業従事者数などがわかる。
- (F) 国民の生活時間の配分や余暇時間における主な活動(学習・自己啓発・訓練、ボランティア活動、スポーツ、趣味・娯楽及び旅行・行楽)の状況などを調査している。昭和51年以来5年ごとに行われている。同調査では、上記の生活時間の配分や余暇時間における主な活動のほか、慢性的な病気及び長期的な健康問題の状態、就業状態、勤務形態、介護の状況、年次有給休暇の取得日数、ふだんの1週間の就業時間などを把握することができる。
- (G) 戸籍法及び死産の届出に関する規程により届け出られた出生、死亡、婚姻、離婚及び死産の全数を対象として、毎月実施される。同調査では、一人の女性が一生の間に生む子どもの数に相当する合計特殊出生率や死因別死亡数、年齢別婚姻・離婚件数などを把握することができる。なお、死因別死亡数では、新型コロナウイルス感染症による死亡数も同調査で確認することができる。
- (H) 日本に住んでいるすべての人と世帯を対象とする重要な統計調査であり、5年ごとに実施される。第1回調査は大正9年に行われ、令和2年調査は21回目に当たり、実施100年目の調査となつた。調査項目は、男女別人口、世帯数、世帯人員、配偶関係、住宅の所有関係、外国人における国籍別人口、就業状態、就業者の産業・職業、従業地・通学地、住居の種類、住宅の建て方など、かなり広範にわたる情報を把握することができる。

<解答群>

- | | | |
|--------------|--------------|----------------|
| 1. 産業連関表 | 2. 社会生活基本調査 | 3. 国勢調査 |
| 4. 就業構造基本調査 | 5. 全国家計構造調査 | 6. 経済産業省生産動態調査 |
| 7. 賃金構造基本調査 | 8. 農業経営統計調査 | 9. 建築着工統計調査 |
| 10. 経済構造実態調査 | 11. 商業動態調査 | 12. 民間給与実態統計調査 |
| 13. 人口推計 | 14. 人口動態調査 | 15. 家計調査 |
| 16. 国民生活基礎調査 | 17. 患者統計 | 18. 毎月勤労統計 |
| 19. 労働力調査 | 20. 農業構造動態調査 | |

問6 以下は特許情報プラットフォーム（J-PlatPat）に関する記述である。空欄（A）～（I）にあてはまる最も適切な語句を解答群から選択し、その番号を解答欄に記入しなさい。

J-PlatPat は、（A）が特許庁の委託を受けて運営している。日本に出願され、公報が発行された特許、実用新案、意匠、（B）の情報を法律ごとに分け、番号や出願人名、（C）、技術用語等から検索できる。拒絶理由通知等を含む（D）などの法的状況や審決公報など、関連する情報を含む。

「特許・実用新案番号照会／OPD」は、五大庁の電子包袋入手できる（E）と、番号から日本や外国の公報を照会できるサービスから成っている。日本の公報は番号が判れば、（F）まで遡って照会できる。特許・実用新案検索は、国内出願に加え、中国、韓国をはじめとする外国の公報や J-GLOBAL などの（G）を対象に、（C）や技術用語で検索可能である。ただし、検索対象や検索項目により検索できる期間、検索できる範囲が異なる。番号や（C）などの書誌情報は（F）の公報まで遡って検索可能であるが、全文を対象に技術用語で検索できるのは、主に（H）以降である。検索結果には権利の維持が確認できる（I）などへのリンクがある。

<解答群>

- | | | | |
|-------------------|-----------|-----------------|-----------------|
| 1. 審査経過 | 2. INPIT | 3. 著作 | 4. 非特許文献 |
| 5. ワン・ポイント・データベース | | 6. 昭和時代 | 7. 外国特許文献 |
| 8. 出願審査 | 9. 年金納付状況 | 10. ワン・ポータル・ドシエ | |
| 11. 商標 | 12. CPC | 13. SIPO | 14. PATENTSCOPE |
| 15. 明治時代 | 16. 分類 | 17. IPDL | 18. 出願料金納付状況 |
| 19. 電子公報発行 | 20. 平成時代 | 21. Espacenet | |

問7 以下は情報の分析に関する記述である。空欄（A）～（H）にあてはまる最も適切な語句を解答群から選択し、その番号を解答欄に記入しなさい。

大学等の研究評価に利用する情報分析に利用可能な情報源のうち、日本の全分野の最新の研究情報について調べる場合、競争的資金が交付されている研究課題を追う方法がある。

これらの研究課題を検索する手段としては、文部科学省と日本学術振興会が交付している制度のうちの一つである、科学研究費補助金を搭載した（A）を用いる方法がある。このデータベースには、当初採択時のデータである（B）、研究成果の概要である（C）・研究実績報告書・研究成果報告書概要、研究成果報告書及び自己評価報告書が収録されており、（D）で検索することができる。（A）は、研究課題を検索できるほか、（B）をもつ研究者情報でも検索することができる。この研究者情報検索は（A）を中心に、学術機関リポジトリデータベース IRDB や CiNii Articles、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）が運営している（E）、Japan Link Center が付与している（F）などに含まれる情報の一部を利用して、研究者・研究成果の情報を研究者番号や DOI などから機械的に統合して作成されている。

また、JST が交付する競争的資金の研究課題を搭載した（G）を検索することも一つの方法である。さらに、最近では研究課題統合検索（H）も運用されており、このデータベースを使うことによって、（A）と（G）を同時に検索できるようになった。

<解答群>

- | | | | |
|----------------------|----------|--------------|--------------|
| 1. 研究者リゾルバ | 2. KAKEN | 3. 研究実施状況報告書 | 4. 事前登録 |
| 5. researchmap | 6. 利用申請書 | 7. 無償 | 8. 有償 |
| 10. 研究成果概要 | 11. JOIS | 12. GRANTS | 13. JaLC DOI |
| 15. JST プロジェクトデータベース | | 16. ORCID | 14. 採択課題 |

問8 以下は、問題解決のための代表的な発想法とその概要に関する表である。空欄（A）～（H）にあてはまる最も適切な語句を解答群から選択し、その番号を解答欄に記入しなさい。

発散技法	概要
(A)	グループで自由に発言、発想することによりテーマに関する意見を引き出す手法。最初からアイデアの内容について批判することや、よいアイデアでなければ発言できないなどと制約することを止め、メンバーが自由に発想できるようにする。
ロジックツリー	問題の原因を (B) の考え方に基づいて論理的に階層化し、ツリー状に分解・整理する解決方法。(B) とは「それぞれが重複することなく、全体として漏れがない。」という意味である。
(C)	比較する二つの要素間の関連性を比較することにより分析、対策立案する方法。
(D)	もともと製品開発に用いる技法として開発され、類比を使ったアイデア発想に有効である。

収束技法	概要
(E)	問題解決のアイデアを生み出す手法。(A) で出された事象を 1 つずつカードに書き出し、グルーピングして小さなグループにまとめ、中グループ・大グループに分類していくことにより、複数の関連事象を組み立てて図解していく。
(F)	(A) などで得られた意見を小さいカードに書き、タテヨコ 7 項目、合計 49 個の一覧表に整理して全体像の把握と課題を特定する。
(G)	重要と思われる原因を考えて図にまとめる。書かれた原因是仮説のため、真の原因を分析し、調査で確認するための準備の方法。
SWOT 分析	組織やプロジェクトの外部要因や内部要因を、強み・弱み・(H)・脅威の四つの観点で分析する手法。

<解答群>

- | | | | | |
|--------------|--------------|-----------|---------------|-------|
| 1. マトリックス法 | 2. 類比発想法 | 3. NM 法 | 4. KJ 法 | 5. 客観 |
| 6. 制限連想法 | 7. 各種評価法 | 8. 反対 | 9. ブレインストーミング | |
| 10. クロス法 | 11. ガントチャート法 | 12. 因果分析法 | 13. MECE | |
| 14. 観察 | 15. 特性要因図 | 16. 機会 | 17. アンケート調査 | |
| 18. チェックリスト法 | 19. 自由連想法 | 20. 形態分析法 | | |

問9 以下はサイバー攻撃に関する説明である。(A)～(I)にあてはまる最も適切な語句を解答群から選択し、その番号を解答欄に記入しなさい。

- (A) ターゲットを特定の組織や個人に絞り、業務関連のメールを装ってウィルス付きのファイルを添付する、または悪意のあるサイトに誘導するURLを貼り付けたメールを送信する等して、マルウェアに感染させようとするサイバー攻撃。
- (B) 1台のパソコンを使って、ターゲットのサーバに過剰な負荷をかけたり脆弱性をついたりすることでサービスを妨害する手法。
- (C) 2020年に猛威を振るったコンピュータウイルス。一度終息したが、2021年11月後半から再び活動が観測される。不正なメールに添付されたWord・Excelファイルを開くことで端末に侵入すると、PowerShellが実行され、ダウンロードされる。個人情報や認証情報などを盗み取られたり、他の端末に伝染したりする。
- (D) 二者間の通信に、特別なソフトウェアなどの不正な手段を用いて第三者が割り込み、傍受、盗聴して内容を取得する。
- (E) ソフトウェアなどのセキュリティホールが発見され、修正プログラムなどが未公表の時、その脆弱性を悪用する攻撃。
- (F) あらかじめ入手したID・パスワードを利用して、さまざまなWebサービスでログインの試行を繰り返す攻撃。
- (G) 身代金要求型ウイルス。画面のロックや、ファイルの暗号化・パスワード設定によりパソコンを使用不能とさせる。ユーザがアクセスすると、アクセス不可能であることを警告し、復元するために金銭の支払いを要求する。IPA（情報処理推進機構）が公開した「情報セキュリティ10大脅威2022」では1位となった。
- (H) 正規のサービスになりすまし、ユーザからクレジットカード番号やユーザIDやパスワードなどのアカウント情報を盗み出す行為。
- (I) ターゲット企業のグループ会社、業務委託先、取引先など、小規模で対策があまり行き届いていない企業に攻撃を仕掛け、この企業を踏み台としてターゲット企業に侵入する。

<解答群>

- | | | |
|----------------------|-----------------|----------------|
| 1. SQLインジェクション | 2. 中間者攻撃 | 3. フィッシング詐欺 |
| 4. ランサムウェア | 5. サプライチェーン攻撃 | 6. スピアフィッシング |
| 7. F5アタック | 8. バッファオーバーフロー | 9. 標的型攻撃 |
| 10. クロスサイトスクリプティング | 11. パスワードリスト攻撃 | 12. ガンブラー攻撃 |
| 13. バックドア | 14. ゼロデイ攻撃 | 15. クリックジャッキング |
| 16. クレデンシャルスタッフィング攻撃 | 17. APT攻撃 | 18. DoS攻撃 |
| 19. Emotet | 20. タイポスクワッティング | |

問10 情報セキュリティに関する問題が生じた場合に、その対策を行うことで、インフォプロの役割である情報検索時に新たな問題が発生することがある。また、在宅勤務の推進など社会情勢の変化に対応した対策や考え方も要求されている。そのため、新たなセキュリティ上の問題の対策が行われた際は、それがインフォプロの業務にどのような影響が出るかを把握してさらなる対策を検討することが要求されている。

以下は、その情報セキュリティの事項とその内容説明、また、その事項への対応によってインフォプロの業務に生じる影響の例の一覧である。

(A)～(L)にあてはまる最も適切な語句を解答群から選択し、その番号を解答欄に記入しなさい。

情報セキュリティの事項	内容の説明	インフォプロの業務に生じる影響の例
シン・クライアント	(A)	(G)
ゼロトラストセキュリティモデル	(B)	(H)
DMZ	(C)	(I)
PPAP	(D)	(J)
ソーシャルエンジニアリング	(E)	(K)
二段階認証	(F)	(L)

<解答群>

<内容の説明>

- ネットワークに侵入するためのIDやパスワードが書かれた紙等を組織のゴミ箱から見つけ出すなど、情報通信技術を利用せずに情報を盗むこと。
- 組織内・組織外関係なくあらゆる通信は信頼できないという考えのもと、組織外からの通信だけでなく組織内通信に対しても安全性の検証を行うことで、組織内・外どこからの脅威に対しても備えるもの。
- ファイルを先方に送付するときにパスワード付き圧縮ファイルを添付した電子メールと、その解凍パスワードを記載した電子メールを二回に分けて送ることで、ファイルの機密を確保しようすること。組織のセキュリティ対策の向上に結びつかずむしろ危機にさらしているとして、この形式によるファイル送付やメール受信を禁止する官公庁や会社が増えつつある。
- ユーザが使うクライアント型コンピュータには最低限の機能しか持たせず、サーバ側でほとんどの処理をこなす方式。
- Webサイトやソフトウェアにログインするときに、IDとパスワードのいずれかを複数回入力させるシステム。
- インターネットなどの外部の信頼できないネットワークと、社内ネットワークなどの信頼できるネットワークの中間に置かれるセグメントであり、ここにサーバを設置することで、安全性と利便性のバランスを取ることが可能になる。
- コンピュータにインストールして利用していたデータやソフトウェア等をインターネットなどのネットワーク経由でサービスとして呼び出して利用すること。

<インフォプロの業務に生じる影響の例>

8. データベースそのものを購入せず、データベースのベンダーと直接契約をしてベンダーのサーバにアクセスして利用することで、在宅勤務や出張時にモバイル端末からも利用できるようになった。
9. 会社支給のスマートフォンからもアクセスできるよう、社内向け情報ポータルサイトがあるサーバをインターネットからアクセスできるセグメントに設置したところ、一部のデータが入手できなくなった。原因を確認したところ、前記サーバから社内の情報の原本がある場所にアクセスできない設定となっていた。
10. データベースアクセス時に会社のイントラネットの掲示板に記載した ID やパスワードだけではなく、会社支給のスマートフォン上のアプリに表示されるパスワードの入力も必要とすることで、セキュリティ性が高まった。
11. 在宅勤務において各人の接続環境が千差万別であることから、組織外からは仮想デスクトップ上からのみデータベースへのアクセスを許可することで、マルウェア感染等によるデータの漏洩リスクが低減した。
12. 電子メールセキュリティが強化されてから、外部データベースを利用時に、検索結果ファイルの解凍パスワードが記載されたメールのみが届き、検索結果ファイルが添付されたメールが届かない現象がしばしば発生するようになった。原因を調査する過程で、ダウンロード結果のファイルサイズが大きくデータを圧縮しているときに発生していることが分かった。
13. 社内ネットワーク限定でセキュリティが担保されていることを前提に、インハウスデータベースにマクロを駆使して利便性を向上させていたが、社内ネットワークのセキュリティ強化によって、マクロが利用禁止となり、別手段による対策が必要となった。
14. データベースを契約するときに、使う頻度が少ないために利用者よりも少ない数の同時アクセス数となる ID 数で契約した。しかし、社員以外による会社 ID とパスワードを利用してアクセスしている不正アクセスが見つかった。原因を調べていると、在宅勤務時に利用できるよう ID と「パスワードをメモしていた紙を持ち帰ったり、出張時に喫茶店などの周りからみられる環境で ID やパスワードが記載されたイントラネットサイトを表示している社員がいることが判明した。

問11 以下は系統的文献検索に関する本の導入の部分の抜粋である。これを読んで以下の設間に答えなさい。

Information specialists search resources to identify information to answer research questions. (A) Typically, we investigate the questions, identify relevant sources of information that might answer those questions, search those sources and retrieve documents. We may also be involved in managing retrieved records and documents and sometimes we also select information from the records or documents that may be most relevant to the questions being asked. (B) Sometimes information specialists produce summaries of the most relevant information.

Information specialists have been undertaking these tasks for decades and many textbooks and guidance documents are available to support them. New techniques are constantly developing which can help with information retrieval and it is important to assess and appreciate what they may offer. (C) New text mining tools, which analyse the frequency and relationship of words in texts, are growing in number and availability. These tools may be particularly relevant and attractive to information specialists developing searches for systematic reviews since text mining can assist with developing searches for broad-based and hard to define topics. It can also provide opportunities to manage and process large volumes of records, which can be a challenge for some research questions.

(A) 下線部 (A) の内容について、最も適切なものを解答群から選択し、その番号を解答欄に記入しなさい。

1. 質問を調べて、次に主題分析をおこない、組み立てた検索式を用いて検索する。
2. 情報源に質問を直接入力して検索し、検索式を組み立てながら検索する。
3. 質問を調査し、それらの質間に答えられる情報源を特定し、それらの情報源を検索して文書を取得する。

(B) 下線部 (B) の内容について、最も適切なものを解答群から選択し、その番号を解答欄に記入しなさい。

1. 情報スペシャリストは検索結果から最も適合性の高い文献を選択する。
2. 情報スペシャリストは最も関連性の高い情報の要約を作成する。
3. 情報スペシャリストは検索結果をまとめて報告書を作る。

(C) 下線部 (C) の内容について、最も適切なものを解答群から選択し、その番号を解答欄に記入しなさい。

1. テキスト内の検索に必要な検索式を自動的に組み立てる新しいテキストマイニングツールは、種類と機能が増加している。
2. テキスト内の文章の意味を自動的に翻訳する新しいテキストマイニングツールは、年々増加している。
3. テキスト内の単語の頻度と関係を分析する新しいテキストマイニングツールは、数と可用性が増加している。

問12 以下はアメリカ議会図書館分類表(Library of Congress Classification)についての説明を抜粋したものである。これを読んで以下の設問に答えなさい。

(A) The A schedule is for works that do not fit anywhere else in the schedules, because they do not have a defined or recognizable subject, or because they cover general knowledge. General encyclopedias like Encyclopedia Britannica are classed here, as are periodicals like Time and Newsweek, and general newspapers.

中略

(B) M, N, and P are for the arts. Music has its own schedule. The visual arts like painting, drawing and sculpture are in N, and so are resources about architecture. P is one of the largest schedules. It is used for resources on linguistics in general, as well as for resources about all of the world's languages and literatures (that is, fiction, drama, and poetry), and also related topics like journalism and theater.

(C) Q through Z are for the sciences. Q, R, S, and T cover the hard and applied sciences, including chemistry, biology, physics, medicine, botany and agriculture, engineering, and much more.

U and V cover military and naval science.

Finally, Z is for library science, and is followed by bibliographies.

(D) The letters I, O, W, X, and Y are not used as main classes. W is used by the National Library of Medicine, Y is used by the Government Printing Office. The letter I could be easily confused with the number 1 and the letter J. The letter O could be confused with the numeral 0 (zero).

(A) 下線部 (A)について、この類に分類されないものを、下記の中から1つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

1. 百科事典
2. 逐次刊行物
3. 図書館学
4. 新聞

(B) 下線部 (B)について、この類に分類されないものを、下記の中から1つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

1. 絵画
2. 彫刻
3. 建築学
4. 物理学

(C) 下線部 (C) について、この類に分類されないものを、下記の中から 1 つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

1. 化学
2. 軍事
3. 生物学
4. 医学

(D) 下線部 (D) について、誤りのあるものを、下記の中から 1 つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

1. W類は米国国立医学図書館分類法 (NLMC) でも使われているため使用されない。
2. O類は0（ゼロ）と間違いやさいので使われない。
3. I類は数字の1や1（エル）と間違いやさいので使われない。
4. X類、Y類はない。